大学生徒の格式

全

へ5
1950

915
へ5
1950
へ5
1950
特

門の怪異幻阿大德の曰世界
幾匂ひ[illegible]人[illegible]
羽花[illegible]身[illegible]
[illegible]
起[illegible]
[illegible]
滅の[illegible]南の[illegible]
[illegible]
[illegible]

楽藤文庫

罷ならぬ一年の丗年のちゝみきわさといふもあおりくには霊

照鐵磨の女人なりしも参禅の定力ありしを特定海運は畜颯

なりしも海法の切力なし　周孫なりしてとりし世人をおゆるの文ちり

この蕉翁の生の後まも入風雅を称し妙ひなきも花のかの古

人をやいふ口のまゝ成かく今に風雅の信ありとの道を讃へきおん

風雅なりて得脱せんとのをやとえんせらむもなきに名ある節急懲悪

の名句り微妙の理をふくみていひふるしは書享保元年のまゝなや

禅師の大祥忌に梓せらるあるを知るものの悦風る人へこゝに世する也

緯ちり名信はまたきの世にちれて世に流布せし　りいる書林楢

屋なりしま衣の御作りのこともし禅師八十回忌にあたり作者あし

て蝿はむ徳を慕ふの淳ありて志あらんありとも人せらくしとそそれ

ましたの後に乃らんと再ひ梓にものしぬ

天明三卯とし二月吉旦

丹後日間浦

支百 謹書

社ちうひ学

ちうこう法をもちゐるこのうれ世の中うを
生れあうん時とかく生れて物うきその中にいろ世界の
人まをあうんやうなれども山水のうつくしきを慕う
うちく清の海は底きき深うして広く周さ九万里なる
ふうこを万里の外に異ひうさはいうちある境をう迷ひ
いうふる苦しみをうう者あうとなるとかうこの世
うをうもうちかく苦しいるものの

道の人は明らかにあれども見えざる人を見る
ことも世の人もの多くは物をさのちく
いつくしむ心の強のうちもなき色をのみ選びわか
精をはらふ人のうちにあるは相剃りうち
世を捨てる角はゆるひるくにたるのみなれど
の刃もをつまるうちに捨ても多に心を選び
こあるかの人のうちにいふもなくいておうの燈火のと
ゝ燈のほうとうの花の香の中

あるとうち捨てうきを夫婦の顔を老ぬるの京に郭さかり
情をいつしかに世のすみちをの忘梅多の花月
新八月なかの菜の花形の杉原ふるの雪も冷
弟をけうとうたうたはうしも離れ別しの樽
併の花をたうこうあるうきをの清水すうるの笑ひ
花のあるうをちもをそうの道の忘れ人くもくの世いなを
骨ををゆるうをのうちにかの家をゆうの刻
ゝ嫁なううあるを世の中をんしまを長いまを七十年八十年

[illegible]病の床も白髪を形見に何思ひかけぬ三月
[illegible]のうちに[illegible]と人にて通ひし
[illegible]ハ女の[illegible]
人生れ[illegible]ハ又母を始め[illegible]
[illegible]男[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]を[illegible]詠む[illegible]門の[illegible]を[illegible]
[illegible]の[illegible]花の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

まる孫子ひとりにあらず人の心のまゝ私ハ遊
の業をなして風を如中つゝ琴を聞て翔るがごと
しよりまた書の字をつくり楊左右の字をふるき
ハつまをつくる情を賀ゝらきわひ藤の右をれを阜文君の調
ゆるいとをつくをまたてしゆ光ゆくをつ者ハ者をなさじ
ものをまつる物をまを素をの私心をかふ藤をを作る
ものをまを流をかのおをまを者をまを者を指
を噛てをまを者をまを者をまを者をまを者をまを

をのをまを作る光の者をを紙をれ此三徒の芸をかを私をの
五像のをまを紙をいうをん於、唐朱男子れをまを一つをまを
しをまをて法の道ををまを卵をを仏をまを仏をまを藤藤の
唐を物をれ者をいをまを風をまを学をを風をまを学を病
ををまを六切徳の法をいをまを仏をまをつくをまを者をを
をまを右をまをのをんをまを者をまを者をまを者をまを者
をまを者をまを者をまを者をまを者をまを者をまを者
国孫をまを人病を思を唐を対を唐の四を対をまを人

弘ともふ時ハ道の念をわすれ兼て浮世のよくろしき
金つもんすりハ玉のよくつして辞んにハ忘れうの書をよみ兼ね
得る先に仕るるに書すれハつくろおきおしなかくへつき合ハ君の身
人なミにあつまりかハ世の事をも見做をあんしかりさきたまふを
なきのみし世の中に立先見る人をも手にし浅きハあら悩む抱く暁の
祢きぬかちあるこころ夕への夜のの辞あまる附て祢やうひ学の
わかちるミ智ふもおもひとつきたる息し
はらし世のならふさいなりハしあらむの年をへ候る江漢連かはらハ

千代ゆ行ことさしたるに初日影とさしあきらか川へ出し日の出をも見る齢の
たの一日をミつけ見て後の年の春をおかハしゆくはる人まるる松ハ蓮
葉にゆきて年の始をもしきみ此ハ長春長に焼出る白人
の縁をとりて島海先の生あつまり若ひとふさとのきさるさきさ子
うるミ後る見の気はあまる立たる田畑の稲の子ハ
なる手毛利気の終ハ庭草の緑とさら近し雉子の叫ハ出るる
ちとそうけしめ鋼の庭を飛之をうるとも称の色をひ立
花く風を見る園のものかと覚し兼て一月のまとめいつまで

も怖ろしく化にハ又へる是のことをしれ海に生ふとり山に棲して
いましきものゝ積ちる殺生の罪ハ血しほに沁しみて皆
のにさえもとの病をうらひてその恨をいだきてハ残害
の道あり年月日の先をこえ初る三ツのことを深しとなる齢
を延へ命をたもたんとなしなも叶ふる難をも勝ちに救んとてあ
まつさへ其思ひをおさめ殺物いたされなとて命のおし
うしさらんも叶ぬとなり唐人のあまたあたらしき書の旅
をいへとかきしるしあるハなふいふある悪日中でんさて折ふし常見んも

あらくまちハおそろしめかしき寒苦をもおもはするの雛をも
まもるハ鳥の身ぞその上老の枕もとにて窮の札あらわして行末
を落つ世の中にハ露なきえぬる気色を現し生涯の様さ
らぬく法師まていつきさまふ子弟の心をそへつ此日をあはれむとて沙門
のふきうち母にさなハ慈恵大師の説法の勝をたのめし一休禅師
ハ髑髏をさゝえて遊女の素性をいうてむかしの名を述べて
うつりあさき花を化るをいさめうつりおもへるも世にまかるなる
病の床にハ眠れつゝも折りて阿弥陀の念珠つまさぐりてあく

[illegible]の事をつき初[illegible]心の[illegible]花を柳[illegible]ゆく枝の節句を
氷の流いさ[illegible]
弾更[illegible]ふき越の[illegible]雛の酒を[illegible]事ハ[illegible]
[illegible]て[illegible]原[illegible]の[illegible]裏の[illegible]なる[illegible]
[illegible]の[illegible]競の[illegible]ひひ[illegible]
[illegible]の小法師[illegible]
蔥(ネギ)の[illegible]紙[illegible]
[illegible]極熟[illegible]

代[illegible]欲をさ[illegible]
く[illegible]物を[illegible]
[illegible]
[illegible]て目[illegible]
柿を事[illegible]
[illegible]の
刃を磨て[illegible]冠の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]命をうけたまはりこの[illegible]
[illegible]切印地[illegible]男の[illegible]田舎人[illegible]
いさ[illegible]成にさえ[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]馬を綱[illegible]切[illegible]の猿[illegible]川[illegible]物[illegible]
六人のあつ[illegible]
[illegible]門[illegible]
[illegible]

力紙味方[illegible]の[illegible]六人[illegible]山伏の[illegible]
皮[illegible]馬[illegible]
[illegible]並[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

壹樣中之為にあるこの杭さき音三百の高さ
進のこうあるとちを留おきこのいとうあれハ如とをハをく
三元にてををこの祝ゝ日ゝをとを集を物ゝ暫さん
ををつめこの為を中をハをを日の陰を成者ゝ一相の寸ハの
をををを者ゝ者の毒をを初杭をハ七夕の祭ハ無筋地の跡
鞠や六角ゝ者立ゝ無尺ををを入為ををを門の前ゝ下祭ゝ
をの汗をを化うけいを男の力ゝ懐ゝ川ゝをもわきをを化
立ゝをををゝはあおをる俗の杭ゝを月をを一ゝ尺ゝ墓の

茅ゝ墓をを小ゝをを迄つゝ小ゝををを杭ゝを
ををゝあい節中ゝ戸あゝをゝをゝ異ゝの屋ゝ小ゝ
者蛭ゝ杭の茅ゝ成ゝ為ゝ杭ゆう杭祝井のをを高を
う者畑の表ゝ者ハ味ゝ小ゝ陰く殺舟底ゝ上一言陰刑年
ゝ者西仇の年ゝをゝ仇ゝの祝ゝをゝ下ゝをのをゝ為一祝ゝを
五色の絲ゝ御のゝ作ゝを上ゝをゝ為ゝ為一者の男ゝ為
をゝあおゝあをゝをゝも桂男のひゝ杭ゝ小ゝをゝ為ゝをゝ
引筆ゝハ者ゝをゝ杭ゝ杭ゝ者ふを者の陰ゝ者ゝ者ゝ陰ゝ

自屋のあさぶかるるとうてもまつ人を先立たるれあす
一夜の立樣たこわの國もこのもの橘と色めきうつるの
秋八月ひとりふるさと清のうかみ葉月多のむのいとひと
つとさしも奥ゆるふ一本橘をいろ中秋の月ふるさとの
寸法有ておもて碑ようの花の道ふるうる容顔みさく
鹿笛のとうとうやこれ成るものあり水鳥も羽引むし
ふるさんふるうるとうるかの足とくるふさこ鶏の目をあい
ふさきてさのうく携さも孫引つこ一男もまるかり一夫の名れ

有ふ寺唐四十崖とあるを脚うめるこるふとなのかれる
ものあ風一ふ一秋八ふうるるのゆく家のの迫きこれ病の
麻の陰鬼さ家さくるるもせる菓の祝ふ金沢ありて菜八
ふふ枕ふ炉のふこ大仏力ふうるる竈ふ色あやのと
あるう海子の彩彩あ水ふふひの湯桑弟のく一茶ふかるる
柿彩ふ八天にあ人をふ親ふ佛ふ橘の花ふひきんを打
をはるるの向ものあ一仏のいまの菓辛のさ栗々の神の
ふるるるるるるるるセるる家ふすく立丹るるふふ園のるあるる

いとをかしき女しなどを上の二三人河のつらなりにてうち相
の身をさめられゆくさまをやいとをかしやいとんいとうとれば
南とかたるをのうらにはかけてひろき月影をうけたる池
に浮き出たる女房たちを指さして劉殷慶の粽生成鞭とつ酒
をいとをかしきものの畑の一きちを一束の稲かをとりて
米をうるに一つの蔵の苔の板戸に書つけて蟬時雨寺の
杉の部にこうかるる郭公八釜の鳴きちがへつ
の外をうらやましきものの花折り

きらきし業用をうるに胸をおこをぬつくるおかしハ
をかしかるべき鎌の時書をうるふくをもいとをかしや法
師の笠をうるにうきをかしき法師実おの月ぬ出でぬるハ
多生の別の別乃らもあるいつも乃きをうるに
仏法をあなどりなめて法師の嫁をうるに米あら
ばしばしもとこ

元禄七年甲戌仲春院日

懐嵩野納文性書

享保元年丙申に[illegible]月[illegible]日晋**帥高道人**
の三回忌の冥福を偈[illegible]門弟子等湖南の住地[illegible]て
[illegible]方丈道人の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人の[illegible]花[illegible]
[illegible]
[illegible]一
[illegible]

[illegible]

[illegible]坂魯[illegible]

[illegible]
[illegible]

右 庸侍学文学老衲の述懐より自言を離れし悟道
乃語脉尤可歎美味微妙千時安政五戊午孟冬日
中聖子白樺写於燈下